



東北大学



平成22年7月12日

報道機関 各位

東北大学金属材料研究所

「東北大金研 低炭素社会基盤材料融合研究センター 本格始動」に関する情報

東北大学金属材料研究所(新家光雄所長)では、新たに設置した「低炭素社会基盤材料融合研究センター」が中心となり、自動車、鉄鋼、重電・家電、エネルギー・環境の幅広い分野での産学連携を実施する体制を整え、低炭素社会の実現に資する革新的材料創製に関する新たな基礎・応用研究を開始した。たとえば、水素化物中での水素の存在状態の根源的解明による資源性に優れたエネルギー貯蔵材料の設計(水素機能材料工学研究部門、折茂慎一教授)、新しい半導体材料の創製や薄膜成長・バンドギャップ制御技術開発による省エネ半導体素子や太陽電池の高効率化(電子材料物性学研究部門、松岡隆志教授)、省エネルギー社会に資する車両軽量化などを旨とした高強度鉄鋼材料創製の新原理の追求(金属組織制御学研究部門、古原忠教授)に着手している。同センターは、構造用金属材料、水素機能材料、スピンエレクトロニクス材料、半導体材料、太陽電池材料などに関わる同研究所内の関連部門が参加して新年度よりスタートしており、今後も産官学にわたる連携の幅を広げる予定。

【この件に関するお問い合わせ先】

〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1 東北大学金属材料研究所

低炭素社会基盤材料融合研究センター

センター長 古原 忠

TEL: 022-215-2045 FAX: 022-215-2046 E-mail: furuhara@imr.tohoku.ac.jp

副センター長 折茂 慎一

TEL: 022-215-2090 FAX: 022-215-2091 E-mail: orimo@imr.tohoku.ac.jp



低炭素社会基盤材料融合研究センター

Integrated Materials Research Center for a Low-Carbon Society

センター長
古原 忠
Head Prof.
Tadashi FURUHARA

副センター長
折茂 慎一
Deputy Head Prof.
Shin-ichi ORIMO

教授 (兼) 米永 一郎
Prof. Ichiro YONENAGA

教授 (兼) 宇田 聡
Prof. Satoshi UDA

教授 (兼) 高梨 弘毅
Prof. Koki TAKANASHI

教授 (兼) 松岡 隆志
Prof. Takashi MATSUOKA

材料科学の融合研究により低炭素社会実現への貢献を目指す

当センターは、省エネルギーから新エネルギーまでの多様な材料研究に関する研究開発シーズを育成・発展させることを目的として、2010年4月1日に所内センターとして設置されました。当センターでは、金属材料研究所の3つの重点分野(社会基盤材料分野、エネルギー材料分野、エレクトロニクス材料分野)にまたがる融合研究により、低炭素社会の実現に資する革新的材料創製に関する基礎・応用研究を展開します。また、研究所の附属研究施設等の資源を有効に活用しながら国内外との共同研究を推進すると共に、産官学連携やワークショップ開催を通して成果発信および社会還元を図ります。

The Integrated Materials Research Center for a Low-Carbon Society (LC-IMR) was founded in April, 2010 for the promotion of integrated research in materials science to contribute to achievement of Low-Carbon Society. The main aim of LC-IMR is to promote outstanding projects in the field of materials research which will contribute to making low-carbon emissions a reality from various perspectives, from energy-saving to energy-harvesting and storage. Cooperation between the industry, the general public and the university will be sought through workshops and actively making information available. In collaboration with other IMR research centers, we are also pursuing collaboration with talented research groups outside our institution.

